

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立翔陽高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長＝事務局長、教務部員＝記録 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、教育情報部主任、教務部主任、生活指導部主任、進路部主任、2年次主任
計7名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者（大学教授2名）、近隣小中学校長、地域住民代表（近隣自治会長）、警察、
保護者代表（PTA会長・副会長）
計7名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月9日（金）内部委員7名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介
学校経営計画、本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和5年11月10日（金）内部委員7名、生徒会長、協議委員5名
校則の見直しに関する意見
協議委員からの教育活動に対する意見・質問
 - 第3回 令和6年2月2日（金）内部委員7名、協議委員6名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
各分掌等からの年度末報告、学校評価（地域）の報告
協議委員からの教育活動に対する意見・評価

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・1月 全校生徒	対象： 675人	回収： 594人	回収率： 88%
・1月 保護者全員	対象： 675人	回収： 338人	回収率： 50%
・1月 教職員	対象： 48人	回収： 35人	回収率： 73%
- (3) 主な評価項目
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、体罰・いじめ、働き方改革に関する項目を計21項目設定した。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・「主体的に学び、行動するような学習活動」について、教員の指導による温度差がある。生徒は、相手の意見を聞くとともに自分の意見を述べられる生徒と受け身の生徒と二極化している。
 - ・家庭学習習慣が定着しているとは言えず、結果として「確かな学力」が身に付いていない状況がある。
 - ・生徒指導について、「学校としての生徒指導方針」の教員間の共通理解を図る場を設けたが、教員全体で頭髪・服装指導を行っているとは言い難い状況である。
 - ・自分の在り方生き方について考える「キャリア教育」について「はばたきタイム」を再構築し、検証する必要がある。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・生徒、教員ともに、「主体的に学び行動するような学習への意識の転換」を図り、相手の意見を聞くとともに自分の意見を述べられる生徒を育てていく方策を探る必要がある。
 - ・学校を生徒や中学生に魅力的に思ってもらうための方策を考える必要性が増しているのではないか
 - ・生徒指導について、「学校としての指導方針」の共通理解と校則の見直しを図り、校則の意義を教員が踏まえて生徒に理解させてうえで、全体で統一した生活指導を行っていく必要がある。
 - ・「国際理解教育」についての狙いを生徒に理解させるとともに、「国際探究部」が中心となり、探求を絡めた国際理解教育の方策を探っていく必要がある。新型コロナウイルス感染症で停滞した

- 国際理解教育においても、状況の変化に伴い再び深化させていく必要があることを確認した。
- 「英語教育推進」のために、教員による指導の違いが大きく理解に差が出ないよう、横の連携を図り、共通理解をもって指導していく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - 教育活動を保護者や地域の方々に理解してもらうために、様々な取り組みが必要であり、ホームページ等を活用して、情報を発信していくことの重要性がわかった。
- 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - 「主体的に学び行動するような学習」について、教員間での指導に温度差をなくす必要がある。
 - 学校の広報活動として、地域の行事により多くの生徒を参加させたり、近隣の中学校との交流を増やしたりする必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- 学校運営
 - 探求的な学びの実践と希望進路実現のための新教育課程編成・実施に向けたカリキュラムマネジメント
 - 近隣住民に広報誌を配布し、様子を知らせることによる、地域に根差した学校づくりの推進
- 学習指導
 - 「主体的な学び」に移行するための指導法についてより一層の改善
 - 学習習慣の定着に向けた仕組みづくり
- 特別活動
 - 3大行事の実施についての検討
 - 部活動について、活動内容、試合結果など、こまめなホームページへの掲載
- 生活指導
 - 「規範意識」を身に付けさせるための指導
 - 校則の見直しを図り、適性に行えているか確認
 - 教職員全体で共通理解を図り、教員間での温度差のない頭髪・服装等を含む生活指導の実施
- 進路指導
 - 長期休業期間中に補習・講習時間の確保、自宅学習時間の増加に向けた取組
 - 自分の在り方生き方について考える「キャリア教育」について「はばたきタイム」を再構築し、より深い進路指導に繋げていく
- 健康・安全
 - 保健環境部、環境委員会を中心とした校内美化の推進
 - コロナ禍においても生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるよう検温・消毒等の取組を継続しつつ、今後の状況に臨機応変に対応する必要性を確認

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- 協議委員人数 7人
- 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6	1					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】協議委員の方の予定がつかず、職員会議、企画調整会議とも参加していただけなかった。

8 その他

- 保護者アンケート結果で「わからない」と回答する割合が今年度も高かった。自由意見では、学校の教育活動について肯定的な意見が多かったものの、「学校からの情報発信が十分でない」との意見もあり、この状況での家庭との意思の疎通が大切であることを実感した。今後も、学校通信、学年通信、進路だより、保健だよりなどで、学校の様子をこまめに伝えていく必要がある。